

## コミュニケーション学域 入学前課題講評

### <課題図書（国際コミュニケーション専攻）>

- ・白井恭弘『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か』
- ・ウェルズ恵子『魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化のルーツへ』

全体として真剣に取り組んだ跡が見られた。高校までの学びの中で習得した様々な体験を重ねながら、外国語習得とは何か、また、歌を通して表現される人間社会や文化のあり方とは何なのか、しっかりと考えようとする姿勢がレポートに表われていた。

具体的には、『外国語学習の科学』を選んだ者の多くが、自分自身の英語学習や海外留学体験に照らし合わせながら課題図書を読み、その内容に納得し、時には反論をも含むレポートを作成していた。また『魂をゆさぶる歌に出会う』を選んだ者は、日頃、あまり意識せず聞いていたマイケル・ジャクソンの歌が持つ深い意味を知って驚いたり、あるいはアメリカの奴隷制度を通して、黒人の間で語られる物語の「常識」が、必ずしも日本的な道徳観念と一致しない事を知ることによって、奴隷制度とは何なのかを考え直すきっかけを見出したりしていた。そこから発展し、他の文献を参照しながらより深い考察を試みるものもあった。ほとんどの者が、これらの著作が意図するものをしっかりと理解していた。課題図書を読みながら感じ、考えたことが、大学入学以降の学びにつながっていくことを期待している。

一方、レポート作成にあたっての改善点も多く見受けられた。最も目立つのは、語調や語句の使い方などの問題である。レポートはあくまでも「論文」としての体裁を持つべきである。タイトルの表記ミス、「」と『』の用い方の不備など、明らかに見直しが足りていないものがあった。また、極めて主観的な表現（「とてもすごいことだと感じた」など）が散見され、場合によっては個人的な好みを記してから議論を始めるものもあった。文章を書く上での体裁や文章の推敲は実に重要なので、大学入学後、リテラシー入門・探求などの授業できちんと学んでほしい。文章をしっかりと読む力、さらにそれを文章で表現する力について、当コミュニケーション学域でしっかりと身につけてもらおう。入学後の皆さんの努力に期待する。

### <課題図書（言語コミュニケーション専攻）>

- ・泉子・K・メイナード『ていうか、やっぱり日本語だよね』
- ・金田一春彦『日本語』（上）

#### 1. レポート課題の把握

今回のレポート課題は、「要旨（二つ）」と「興味を持った点とその理由」を述べるというものでした。課題をきちんと把握した上で書かれているレポートがほとんどでしたが、中には、要旨と感想が混在しているものもありました。このレポートでは何が求められているの

か、課題を正確に把握することが作成の第一歩です。

## 2, レポートの形式面について

大学のレポートでは、車の両輪のように中身と形式の両方が求められます。

まず、形式についてですが、日本語の文章では段落の冒頭は一文字下げるという、小学校段階で学習しているはずのことができていないものや、また、要旨を書くことが求められているにもかかわらず、要点を抜き出して、それを並べただけのものもありました。要旨も一つの文章なのですから、前後のつながりを考え、接続語や指示語を工夫しながら、読み手に伝わるように書いていく必要があります。

さらに、どの本の何章を選んで要旨を書いたのか、その情報が示されないまま要旨の記述が始まっているレポートがいくつかありました。自分が書いた文章を理解してもらうためには、相手(=読み手)に必要な情報をきちんと提示していくこと、つまり、「読み手意識」を持って書いていくことが大切です。

この他、文末表現や体裁などで不備がありました。自分の文章を何度も読み返し、推敲する力を今後養っていくことが必要です。

## 3, レポートの内容面について

「要旨(二つ)」はしっかり書けていました。与えられた字数を上手に使い、わかりやすくかつ充実した内容でまとめているものが多く、読みごたえがありました。

また、「興味を持った点とその理由」は書き手の意図や「伝えたい」という思いが強く伝わってきました。課題図書を読むことで、普段、当たり前のように使っている日本語をどのように見直したのか、また、どのような気づきがあったのか、自身の経験や考えを織り交ぜながらその中身が生き生きと述べられていました。